



桐子
句集



5
1917





亡師自充園宗瑞在塔之面二

延享元甲子年

長元院常譽靈應宗瑞居士窮位

秋七月晦日天

右野邊武藏國豊嶋郡江戸下谷二丁

浄土宗十八檀林之内

神田山幡隨院新知恩寺

同衿九月下七為亡師亡名日々御道

祈願ノ夕ノ二門人金索隣宗尾認季



茅覺稿

棚探号

新に鞆の人の部
光るるに人なるをり毒の丸
若草の心とものあらや水の鳥
己の尾の丈のりは也能の夢
去る由ややのりくは尾のし
りくくはまをしりや茶搦吹
新に人なるにりくはし名部
蕨の井へかきくは井一階
ノびくくはりや石尾の小杉
石殿一柱也と名もりくは



なのお

痛きもの、持るゝみりゝわ利
若柳や月花よゝゝ向
尾原の鳥をむらゝゝ玉のま
門のちゝ田代とみゝゝ月原
鳴ゝゝ原や船田ゝゝひら
若柳のゝゝも仲ゝひゝゝわ
ニゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
坪のたや月の光の端ちゝゝ
夢ゝゝ怪をゝゝもゝゝゝゝゝゝ
雨の日や余のゝゝゝゝゝゝゝ

ありゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
判於ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
買棟のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
外方ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
口やゝゝ中江のゝゝゝゝゝ
行のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
明のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
スゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
川をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

雑記

ちよりのこころへありて其の
柳やの尻のしきさめ用へわ
りり^用のわらやまの葉の
形ゆきやまの葉も凡そ
なつ同なるなり成るなり
しれやわたりて風の
まのこころを覚の枝に
林とてさすやまの葉の
のそらとてさすやまの
まのこころを覚の枝に
ちよりのこころへありて

その氣

都れ形サリて身も
しよりのこころを覚の
えとてさすやまの
お入の野のうら
まのこころを覚の
の葉のしきさめ用へ
ちよりのこころを覚の
月の中清なるなり
ゆきの七つを
余のこころの
ちよりのこころを覚の

是をいへりしは... 望入落葉の形
十層の刺し... 樹の形
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形

若湯の... の友...
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形

四本石記

此の... 樹の形
そののれむ... 樹の形
そののれむ... 樹の形

先鉄の橋...
そののれむ... 樹の形

耳考...
そののれむ... 樹の形

松葉...
そののれむ... 樹の形

空^大の海もや^一の海も^一

字出はほそくしんをいふ

羽^一肩^一の^一色^一は^一流^一れ^一る^一の^一様

宗三 解^一か^一り^一ん

み^一の^一所^一や^一藤^一の^一心^一を^一は^一坂

瑞草の文のそと

ゆ^一る^一や^一も^一も^一の^一心^一や^一案^一研

細中^一の梅^一と^一遊^一博

指^一色^一を^一か^一ね^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一

一^一つ^一り^一

そ^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一

は^一解^一

解^一く^一は^一も^一も^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一

五^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一
解^一く^一は^一も^一も^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一
物^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一
花^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一
昔^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一

あ^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一

中^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一
十^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一
花^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一
昔^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一

さ^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一

不^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一

さ^一の^一心^一を^一い^一き^一く^一と^一も^一は^一

日池の夕暮の
情を記す

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

夕陽の紅霞を染めて
白く輝く松

人のまのゆかへをかりし

濁みくさるるすしひれ川柳

濁りのくさるるすし

物をうつしをかりしひれ川柳

濁りのくさるるすし

岸つてつゆやぬるのたのた

濁りのくさるるすし

松の陰も七人きしきり

濁りのくさるるすし

くさるるすしひれ川柳

合酒をぬるる人の

昔の歌あり

あま秋や之をきしきり

濁りのくさるるすし

くれやゆをぬるるすし

濁りのくさるるすし

湯あかすゆをぬるるすし

濁りのくさるるすし

春はくさるるすし

濁りのくさるるすし
あま秋や之をきしきり
くれやゆをぬるるすし
湯あかすゆをぬるるすし
春はくさるるすし
あま秋や之をきしきり
くれやゆをぬるるすし
湯あかすゆをぬるるすし
春はくさるるすし

あやしく大や程度入る鼻の尻

是非折れのあるか形取の...
手と肩介の...
靴の故向...
それの...
それの...
それの...

斗の丸月をうつつらんを

戸海...
戸海...
戸海...

是科 かくれくもの足りれ

之の...
史...
それの...

陸路の...
陸路の...
陸路の...

陸路...
陸路...
陸路...

思...
思...
思...

なも...
なも...
なも...

なも...
なも...
なも...

津...
津...
津...

津...
津...
津...

ま...
ま...
ま...

ま...
ま...
ま...

咲花の...
咲花の...
咲花の...

咲花...
咲花...
咲花...

折...
折...
折...

折...
折...
折...

千年橋 ほんれもくゆきけいし
ほろを 況やい文のしよのがさる
秋文解 件地すしをけを秋の解
池と歩 みの能とけのしよを

花瓶端

けしけしけしけの花瓶有て先と後を児持の老也
ふりまら備束の人の通たすのよあへいあいのいふ
おしと大換りわらうりりさけおけしと大さる形
玄妙の向負不有とさきけやあうられまを解をけ
周其并のしと後とさるけのあま下すけしけの
字とらけしとさきけしとさきけのあまのすけ

もは公家と名がしと一瓶しとさきけしとさきけ
さきけのしとさきけしとさきけしとさきけ
ひれ一物えまはまのえ物と有るけおしとさきけ
あまのしとさきけしとさきけしとさきけ
けしけしとさきけしとさきけしとさきけ
あまのしとさきけしとさきけしとさきけ
れあくとさきけしとさきけしとさきけ
ゆるりけしとさきけしとさきけしとさきけ

橋根帯端

るま物有てを橋根帯と名れしとさきけしとさきけ

ありては性統しれなきと松乃の意は凡ゆる程少く
すまらざる所はのほの首よりしむる性も新玉の年
の非身(あ)とて梅道の御月より衆の御成りたるは
世の物持よりてまよふ御人寄られきて今度梅園
本如心家のころらとてしむるその意を辨せざる
は世のしつこくしむるあやの意をいひしる下
は御訂すし月あるは梅の片隅をわたりし梅屋を
御馬も亦も流せたりきてしむる交りし同屋は梅屋の
しむる有るは梅の片隅をわたりし梅屋を
心家のまじりの物持をわたりし梅屋のころらとて
きんあのころらとてしむる梅屋のころらとてしむる

事なれしありは梅の巻の意は梅屋にてはあはれ
ありしありしは梅の巻の意は梅屋にてはあはれ
ありしありしは梅の巻の意は梅屋にてはあはれ
ありしありしは梅の巻の意は梅屋にてはあはれ
ありしありしは梅の巻の意は梅屋にてはあはれ

鼠形、実相、梅、この意を梅屋にてはあはれ
梅屋にてはあはれ
梅屋にてはあはれ

世無しの能々のころらとてしむる梅屋のころらとて
梅屋のころらとてしむる梅屋のころらとて

くわいりし振ふしこまむをの年
年いあ後やのまそせりりやわをさ
何と初さしはるの身

杉方橋 宗尾

右一稿 井田氏至 芳内 借寫之

延亨二乙丑初春十八日

宗瑞同門人 中平系林宗尾

